

平成23年第3回（6月）瀬戸内議会定例会

教育委員会行政報告

市長の一般行政報告に続いて、教育委員会から4件の行政報告をいたします。

○ 東日本大震災に係る対応について

先日の東日本大震災につきましては、未だ行方不明の方や、避難生活を余儀なくされている方が多数おられる状況であり、心からお見舞い申し上げます。

さて、この震災に関わりまして、被災園児児童生徒が本市の幼稚園・小学校・中学校へ転入の希望がある場合には、柔軟かつ速やかに受け入れるよう国・県から依頼されております。現在のところ、本市への転入を希望する被災園児児童生徒はおりませんが、いつでも受け入れることができるよう準備をしております。

また、今回の震災については、予想をはるかに上回る災害が発生したときの対応という点で、さまざまな教訓を与えてくれると考えております。学校・園の危機管理について再点検をし、園児児童生徒の安全を確保していきたいと思っております。例えば、各学校・園で行

われている避難訓練も、津波や洪水を想定して、一番安全に早く避難できる高い場所はどこかを校内で検討し、実際に避難する訓練を行うなど、これまで以上に大きな被害を想定して安全を確保するよう努めていく所存です。

○ 平成22年度末 公立小中学校教職員人事異動について

平成22年度末の教職員異動数は、平成21年度末とほぼ同数でした。転出・退任者の内訳は、校長4名、教頭4名、教諭25名、養護教諭3名、事務職員2名の38名でした。異動の大半は郡市を超えた異動であり、昨年度よりも郡市間の交流数が増加しました。

傾向としては、定年前の退任者が増加していること、岡山市に加え、倉敷市、玉野市等との人事交流数が増加していることの2点があります。退職者の増加に対応し、新規採用者の増員配置を行いました。

新たな職については、「指導教諭」が小学校へ1名配置され、「主幹教諭」は小学校1名、中学校2名、「指導教諭」は小学校3名、中学校1名となりました。

新たな取組として、校種間交流を促進するため、小学校教諭1名に県立特別支援学校との兼務発令を行いました。

平成23年度末に向けての課題としては、昨年度同様に教職員の男女比及び年齢バランスの改善を図ること、退職者数の増加への対応があります。県と連携して適切な人事異動を行ってまいりたいと考えております。

○ 北海道幌加内中学校と牛窓中学校との交流について

瀬戸内市と姉妹縁組を結んでいる北海道幌加内町から、今年も5月11日に幌加内中学校の3年生7名と引率の教諭2名が修学旅行で牛窓中学校を訪問し、牛窓中学校の生徒会役員とレクリエーションや合唱で交流し、お互いの学校紹介などを行いました。またこの交流会に先立ち、事前に生徒のプロフィールなどをメールで交換するなどして準備を進めてきました。

この取組をとおして、両校の生徒は、遠い地域の人や物事について知るというだけでなく、互いにコミュニケーション能力を高めたり、人をもてなす心について考えたりするなど、貴重な体験となりました。

教育委員会では幌加内中学校の希望に沿って、今後もこの交流事業を継続していくことにしています。

○ 読書で深まる家庭の絆プロジェクト事業について

安心子ども基金「地域子育て創生事業」を活用し、読書で深まる家庭の絆プロジェクト事業として、行政や地域の子ども読書活動に関わる団体など官民が協働して家庭でのふれあい読書活動を推進し、子ども自身の成長はもとより、家庭でのコミュニケーションを増やし、絆を深め、地域や家庭の教育力の向上の一助とすることを目的に、家庭ふれあい読書活動「家読」（うちどく）が各家庭で取り組まれるよう、読書週間などの機会を利用した「家読」（うちどく）活動や絵本作家を招いての啓発講演会などを計画しています。関連予算を本議会に計上していますので、よろしく申し上げます。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成23年6月1日

瀬戸内市教育委員会

教育長 山崎 宗則